



関係者の弛まぬ努力の結果、入所者様の安心と笑顔が生まれます。



看護師による応急処置のレクチャー。



情報の共有は基本中の基本。



お誕生日おめでとうございます!!



消火器での訓練も欠かせません。



緊急時の連絡は迅速に。

【消防訓練】
入所者様の安心・安全を最大限に考慮した取り組みの様子を、ご覧ください。

安心・安全な生活を
送っていただくために

ふたばよもやま話 (第三十四回)

～“小倉”と“熊本”～

今回は、日頃何気なく使っている“小倉(こくら)”という地名について考えてみました。

語源については諸説ありますが、北九州市のホームページによると、上代皇室の領田にできた穀物を納めた屯倉(みやけ)といわれる「倉」それも「小さな倉」が足立山麓にあったからという説や、「企救(きく)の浦」が「こくの浦」となり、更に転化して「こくら」になったという説があります。

その後、1900年(明治33年)、小倉市制が施行。1963年(昭和38年)に五市(小倉、八幡、門司、若松、戸畑)が合併、北九州市が誕生しました。1974年(昭和49年)には小倉区が小倉北区と小倉南区に、八幡区が八幡東区と八幡西区に分かれ、七区制がスタートし、現在に至っています。

さて、小倉のシンボルと言えば小倉城ですが、小倉城には興味ある逸話がたくさんあります。

小倉北区に熊本と言う地名があります。『おもしろ地名北九州事典』によると、1600年に細川忠興が小倉城築城に取り掛かりますが、巨大なお城建設には膨大な資材が必要になります。その為、諸職人が不足し、各地から呼び寄せました。その中の、肥後熊本から呼び寄せた瓦職人がこの地に窯を開いたことに由来する、と言われています。

その後、細川家は熊本に国替えになりますが、“小倉”と“熊本”には、このようにとても深い縁があったのですね。



竹あかりイベントで彩られた小倉城と、ライトアップが美しい天守閣の夜景。『小倉城竹あかり』は毎年秋に開催されています。



生活の舞台 第二回・居室

入所者様が夜間はもちろん、日中も寛ぎの場として、前号掲載の「ホール」同様1日の大部分の時間を過ごす、居室。当苑には、4人部屋タイプの多床室と、プライベートな個室の2タイプがあります。と言いつても当苑は多床室がメインにはなりますが、同室者が居て「寂しくない」という点と、利用料が安いという点で、2つの大きなメリットがあります。もちろん、多床室であっても、個別にカーテンで仕切ることが出来、最低限のプライバシーを確保することは可能です。

一部の居室を除き、殆どの居室が南向き。高台に位置し、妨げるものが何ひとつなく射し込んでくる陽光、徳吉の町並みや小嵐山をはじめとする山々を望む眺望もまた、当苑の大きな魅力です。



【編集後記】▼一年が経つのは早い。齢を重ねるごとに年々そのスピードは加速しているように感じる。日々の時間、そして一年という区切りを早く感じつつも、まだまだしなくてはいけないことが多くあるため、時間に追われる。しかしこのことはある意味、幸せなことかもしれない▼先日、小倉城竹あかりイベントを訪ねてみた。膨大な数の竹あかりは実に綺麗で、その一つひとつに明かりを点す関係者の努力には感心させられた▼小倉城は福岡県内で唯一天守閣があるお城で、市民の小倉城に対する愛着がこのようなイベントを成功させたのだと思う▼学生時代、ある社会科の先生から、「江戸時代のお城は領主による領民からの搾取の結晶である」と習ったことがある。確かに全否定はできないところもあるだろうが、いろいろな文献を読んでいると、どうも違うようである▼お城は領民の誇りであり、また自慢のタネでもあった。他国に旅した人が自分の領地のお城を自慢したり、各大名が持つお城を比較したりしていたようだ。もちろん、島原城のように、重税の上に築城され一揆にまでなった例もあるが、良きにつけ悪しきにつけ、お城はその国のシンボルであった▼前述したように小倉城は、県内唯一の天守閣があり、市民の愛着も深い。イベント成功の基は、昔から小倉に暮らす人々の遺伝子が、お城を介して、現在に脈々と受け継がれているのではないだろうか。

※年末年始面会休止のお知らせ

感染拡大防止の観点から、年末年始期間は、以下の日程で家族様の面会を休止とさせていただきます。

12月27日(土)

～1月4日(日)

なお年明けの面会は1月5日(月)より再開とさせていただきます。何卒ご理解ご了承ください。

今月の予定(12月)

石橋胃腸内科医院 回診(毎月曜日)

1日、8日、15日、22日

ますゆき皮膚科クリニック 回診

4日(木)、25日(木)

小倉南歯科医院 回診(毎火・木曜日)

2日、4日、9日、11日、16日、18日、23日、25日

ビューティヘルパー(訪問理美容)

17日(水)

クリスマス会

22日(月)

【編集後記】▼一年が経つのは早い。齢を重ねるごとに年々そのスピードは加速しているように感じる。日々の時間、そして一年という区切りを早く感じつつも、まだまだしなくてはいけないことが多くあるため、時間に追われる。しかしこのことはある意味、幸せなことかもしれない▼先日、小倉城竹あかりイベントを訪ねてみた。膨大な数の竹あかりは実に綺麗で、その一つひとつに明かりを点す関係者の努力には感心させられた▼小倉城は福岡県内で唯一天守閣があるお城で、市民の小倉城に対する愛着がこのようなイベントを成功させたのだと思う▼学生時代、ある社会科の先生から、「江戸時代のお城は領主による領民からの搾取の結晶である」と習ったことがある。確かに全否定はできないところもあるだろうが、いろいろな文献を読んでいると、どうも違うようである▼お城は領民の誇りであり、また自慢のタネでもあった。他国に旅した人が自分の領地のお城を自慢したり、各大名が持つお城を比較したりしていたようだ。もちろん、島原城のように、重税の上に築城され一揆にまでなった例もあるが、良きにつけ悪しきにつけ、お城はその国のシンボルであった▼前述したように小倉城は、県内唯一の天守閣があり、市民の愛着も深い。イベント成功の基は、昔から小倉に暮らす人々の遺伝子が、お城を介して、現在に脈々と受け継がれているのではないだろうか。